

◇ 令和4年度 事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

1. 総括

令和4年度は、新型コロナ・ウイルスの制約を受けながらも工夫を重ねた事業活動を行い、県民が情報サービスの恵沢を広く享受できる環境づくりや高度情報通信ネットワーク社会の形成を推進し、地域経済の発展と公共福祉の増進を図ることができました。

主な実施内容には、令和4年6月の「インターンシップ・マッチング会」の再開、11月の「千葉県内中小企業向けビジネス交流会（第4回）」の継続開催、令和5年2月の「新技術調査研究会」・3月の「視察ツアー」再開等があります。

この他、新入社員研修事業、情報通信人材研修、合同企業説明会では、工夫しながら開催を継続し皆様の要望に応えることができました。

また、2月の会員弁護士様のご厚意による「セキュリティ・セミナー」の開催等の動きもあり、ウイズ・コロナ禍での活動が活発化してきた年となりました。

2. 事業活動報告

下記組織（1室・5部会）が中核となり、事業活動を実施しました。

（事業活動組織）

- | | |
|-------------|--------------|
| a. 企画調査室 | d. 広報部会 |
| b. 総務福利厚生部会 | e. 教育技術部会 |
| c. 事業企画部会 | f. コンソーシアム部会 |

（1）情報サービスに関する調査及び研究に関する事業

令和4年度は、次の事業を実施しました。

①情報技術研究、調査に関する事業

A. ANIA(全国地域情報産業団体連合会)活動

令和4年11月に、3年振りの「対面方式」による全国大会が京都市で開催されました。

令和5年2月に開催された賀詞交歓会も対面方式となり、これ迄、Web形式で実施されてきた理事会、事務局会議も順次、対面方式へ移行開催された年となりました。

当協会は積極的にANIAの会議に出席し情報交換・収集を行いました。

主な会議日程は以下のとおりです。

- ・全国大会：11月17日。総会：7月7日。
- ・賀詞交歓会：2月9日。
- ・理事会：4月27日、7月7日、11月17日。
- ・事務局会議：9月15日、11月17日、2月10日

B. 千葉県内大学による卒業論文発表会

毎年県内理系大学の学生や専門学校生による卒業論文発表会を開催し、学生の勉学向上支援と、情報産業界、教育界、官公庁間の連携強化を図った事業を展開していますが、令和4年度は開催を中止しました。

C. 視察ツアー

令和4年度は、「NTT e-City Labo」の視察を行いました。

本事業は、他業態の実態を肌で体験しIT推進に活かす目的で、チャーターしたバスを使って、企業先等を訪問・視察するものです。

コロナの影響で令和元年度から中止していましたが、ようやく実施することができました。今回の参加者数は、15社、24名となりました。

なお、過去の視察ツアーでは、「農業の実情把握」「漁業の実情把握」「オーガニックと地域活性化の現況把握」を行っています。

(2) 情報化に関する普及啓発及び促進に関する事業

令和4年度は次の事業を実施しました。

①情報システムの普及推進支援事業

A. ちばDXフォーラム(11月15日)

千葉県DX推進協議会が主催するフォーラムで、次項の当協会主催の「千葉県内中小企業向けビジネス交流会」と共催する形で開催されました。本フォーラム参加のために官公庁、当協会会員企業、会員外企業等の方々が多数来場され、内容が分かり易かったと好評を得ました。

フォーラムのテーマは、「デジタルインフラの整備」で、以下の3講演が行われました。

- a. デジタル田園都市国家インフラ整備計画について
- b. デジタルインフラのすゝめ
- c. 社会課題の解決を支える富士通の Computing as a Service

B. 千葉県内中小企業向けビジネス交流会

千葉県内中小企業のIT化を支援する目的で、当協会会員企業による「ITの展示会」、「講演会」、「パネルディスカッション」を、「対面方式」で実施し、併せて「オンライン・ライブ」を行う方式で実施しました。本ビジネス交流会は、初回開催が令和元年度となりますが、コロナ前でしたので、「対面方式」開催し、新型コロナ・ウイルス感染が記憶に新しい令和2年度は、「オンライン方式」のみで開催しました。新型コロナ・ウイルス感染拡大が治まりつつあった前年度の令和3年度は、それ迄に培った「対面方式」と「オンライン方式」運営のノウハウを活かし、「新型コロナ・ウイルス感染防止策」を徹底する中で、来場人数を制限する等の対策取った「対面方式とオンライン視聴を可能としたWEB方式」を併用し実施しました。

本事業の開催概要、総括等は以下のとおりです。

【開催概要】

- ・ 開催日時 令和4年11月15日（火）10:00～17:00
- ・ 開催場所 千葉銀行本店 3階大ホール
- ・ 開催形式 対面方式とオンライン方式の併用
- ・ 開催内容
 - ・ 出展方法 会場出展、オンライン出展、パネル出展、HP出展
 - ・ 講演会 基調講演、パネルディスカッション
(会場視聴、Zoom、YouTube Live)
 - ・ 展示会 対面参加、展示ブースのLive中継
- ・ 開催規模 出展企業（16社）
 - ・ 参加者数 500名（来場200名、オンライン視聴300名）
 - ・ その他の参加 後援：7先 ・ 協賛：8先
- ・ 参加者費用 来場者、オンライン視聴者とも無料
- ・ 出展企業費用
 - ・ 一般出展 5.5～22万円の3区分
 - ・ 協賛出展 2.2万円
- ・ 広告方法 チラシ、ポスターを会員・関連団体・職域等へ配付する他、当協会HPへの掲載、プレスリリース等を実施。
- ・ 後援 経済産業省関東経済産業局、千葉県、千葉市、公益財団法人千葉県産業振興センター、公益財団法人千葉市産業振興財団、一般社団法人千葉県商工会連合会、千葉県商工会議所連合会

- ・協 賛 (株)千葉銀行、(株)千葉興業銀行、(株)京葉銀行、東日本
電信電話(株)、(株)ジーウェイブ、ミツイワ(株)、船橋
情報ビジネス専門学校、(株)オニオン新聞社
- ・主 催 公益社団法人千葉県情報サービス産業協会
- ・出展企業 ちばぎんコンピューターサービス(株)、東日本電信電話(株)
千葉事業部、(株)ジィ・シィ企画、ちば興銀コンピュータソ
フト(株)、(株)AS ネットワークセキュリティ、(株)オニオン
新聞社、(株)京葉情報システム、公益情報システム(株)、(株)
ジーウェイブ、首都圏システム開発(株)、(株)千葉測器、NPO
法人日本情報技術取引所、(学)三橋学園 船橋情報ビジネス
専門学校、(株)ベイキューブシー、(株)N I D ・ M I、(株)
ビーガル

【講演概要】

・基調講演

- ・テーマ：身近になった宇宙のいま～スカパーJAST(株)の宇宙
事業への取り組み～

スカパーJAST株式会社 古川 操氏

・パネルディスカッション

- ・テーマ：各社それぞれのDX

(コーディネーター)

東日本電信電話株式会社 境 麻千子氏(当協会副会長)

(パネリスト)

株式会社マイナビ 井上 慶子氏

平山建設株式会社 平山 秀樹氏

株式会社N I D ・ M I 馬場 公光氏

株式会社ジィ・シィ企画 村本 充氏

【全体総括】

- ・広い会場スペースを活かして「講演会ゾーン」と「展示ゾーン」を区分し、
人流密集回避を図ることができました。
- ・また、スペースを利用して会場入口に展示した出展企業パネルが、入場者の
目を引き、会場の雰囲気盛り上げに役立ちました。
- ・併せて、講演会コーナーや展示ブースへの十分な動線確保を行ったため、来
場者が会場内を自由に動き回ることができ好評でした。
- ・オンライン視聴者のためには、“インターネット上に新しいバーチャル空間”
を作り出す「oVice(オービス)」を利用して、「オンライン上の会話」や「メ
ターバース空間」を楽しんでいただきました。

- ・開催日当日に、新型コロナ・ウィルス感染拡大に伴う突然の会場閉鎖があった場合の対応手段を整備し、

- ①閉鎖時は、オンライン開催のみとする事前告知を徹底、

- ②会場入場・オンライン視聴とも事前登録制

- とし、円滑なオンライン切替ができる仕組みづくりをしました。

- ・また、当日の会場来場者には、「マスク着用」「アルコール消毒の励行」を義務づける他、「会場扉の常時開扉」等の万全な対策を行いました。
- ・さらに、来場者が集中する場合に備え、入場制限実施の体制を整えましたが、幸いなことに、制限を要する事象は発生しませんでした。

【事業の成果】

- ・本年度は、当協会会員の出展に加え、

- ①「千葉県様のブース出展」、

- ②「千葉県受託事業（IT推進事業）成果報告」、

- ③「千葉大学のプレゼン」のエントリー希望を取り入れ実施しましたが、本交流会が地域に根ざして来たことを実感させる内容となりました。

- ・開催目的：

- ・「千葉県内中小企業に対するIT化支援」及び

- ・「千葉県内中小企業との交流・出会い深め、当該企業各社の事業の効率化・収支構造の改善を目指す」は、

来場され展示ブースをご覧になった方、あるいは、オンライン経由で視聴された方に体感いただき、達成できたのではと考えています。

特に、今回初めて実施した「oVice(オービス)」の活用は、新たな技術動向の体感を通し話題を集めたのではないかと思います。

- ・また、来場あるいは、視聴された方々は、本交流会への参加を契機に、IT化に対する関心がさらに高まり、各社のIT化推進の動機づけができたと思われれます。

- ・本交流会では、前年迄の各種開催方式（対面・オンライン）を実施した経験を活かし、新型コロナ・ウィルスの感染状況に応じた柔軟な対処方法を準備し、両方式の利点を活かし、成功裡に実施することができました。この経験則は、当協会内だけでなく、県内中小企業への支援時にも役立たせることができる意義あるものと考えています。

- ・本交流会の開催は、県内中小企業のIT化推進支援に有益なもので、地域経済の活性化にも多大な貢献ができたものと考えています。

また、既述のように県や大学の参入もあり、地域社会に根ざしたものとなりました。

C. ロボット・カー 親子プログラミング教室

令和4年度は開催を中止しました。

本事業は、地域社会へのIT普及と学校のIT学習導入を踏まえ、小学校高学年生のレベルに合わせ、専用プログラムを利用し、教材の「ロボット・カー」を走行させるプログラミング学習で、親子に参加していただき、実際にプログラムを組み「ロボット・カー」が直進・後退・進路変更等を行う様子を体験していただく事業です。

② 情報システム活用啓蒙推進事業

A. 講演会・セミナー等

(ア) 「賀詞交歓会講演会」

令和4年度の賀詞交歓会は開催を中止しました。

B. 広報活動

(ア) 広報誌「CHISAジャーナル」

第47号(総会号)と第48号(新年号)を発刊しました。

総会号は、宮城新会長のプロフィールを掲載しています。

新年号の表紙は、未来への飛躍をイメージし、夕日に映える富士山の雄姿としました。

当ジャーナルが、コロナ禍を乗り越えようとする皆様の心の安らぎになればと願っています。

(イ) 協会活動報告「協会だより」

当協会では、協会活動を会員と地域の方々にも知っていただく目的で、「協会だより」を作成し、ホームページに掲載・発信しています。本協会だよりは、理事会開催の都度作成し、理事会の審議内容や協会組織である各部会の活動状況をお知らせしています。

令和4年度の発信回数は5回となりました。

(3) 情報サービスの人材育成及び確保に関する事業

令和4年度は次の事業を実施しました。

① 情報サービスの人材育成に関する事業

A. CHISA実践型新人社員研修(実践型人材養成システム)の実施

新人社員を対象とした研修で、当協会が組織する「CHISA実践型新人研修実行委員会」が企画運営を担い、教育訓練機関と連携し実施しています。

本事業は15年の実績があります。受講メリットの一つに研修受講生間に同期意識が醸成されることが挙げられます。

この結果、研修終了後、受講生が所属企業に戻った後も、気兼ねなく他企業の仲間に連絡が取り合えるという効果が生まれています。

令和4年度の受講者数は16社、69名でした。

B. 新技術調査研究会の活動

令和4年度は、新技術調査研究の発表会を、令和5年2月27日（月）に対面方式とWEB方式を併用し開催しました。

発表者数は、6社14名で、4チームに分かれ1年間研究を行いました。

チームの会合は、主にWEB方式で進められました。

発表当日の参加者数は、対面・WEB合計11社39名でした。同一チーム内でも、対面とWEBの出席者が混在し、WEB活用が印象的であった発表会となりました。

本活動は、令和4年度で20年目となる歴史を持ち、会員企業若手技術者の育成と参加者の企業間交流を主目的とした事業として定着化しています。具体的な流れとしては、年度初めに参加者を募り、研究テーマ別にチーム編成後、テーマに沿って共同研究を行ってもらい、活動の成果を、年度末に開催する「成果発表会」で発表していただいています。

C. 技術研修会の開催

IT技術者育成のための研修「CHISA情報通信人材研修」を技術系、業務系、管理系、ヒューマンスキル系の4分野に亘って開催しました。

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を受け、開催規模が小さくなりましたが、計12コース、95名の方に受講していただきました。

②情報サービスの人材確保に関する事業

A. インターンシップ・マッチング会

インターンシップは、学生の企業就労体験を支援するものですが、毎年、参加希望学生が多いため、事前に学生と会員企業を集めたマッチング会を開催し、インターンシップ参加者を決定しています。

本事業は令和4年度で22年目となります。

本事業は、令和3度は中止しましたが、令和4度は開催方法をWEB活用する方法に変更し実施しました。

次年度以降もWEB活用を踏襲した方式で開催予定です。

変更ポイントは、「会場を1日借り切った対面式」を、「WEBを活用した方式」へ変更するもので、協会HP上の掲示板に受入企業の募集要項である詳細情報を掲示し、その掲示板を閲覧した学生が、「WEB申込み」というものです。

これにより、

- ①日程調整のつかなかった学校の学生が申し込みできる。
- ②申込受付期間の長期化
- ③オンライン申込による利用上の利便性向上

が図れています。

(4) 情報サービス産業の経営基盤の確立整備に関する事業

令和4年度は次の事業を実施しました。

①経営基盤の確立に関する調査、研究事業

A. 学生向け合同企業説明会の開催

学生向けの会社説明会を開催しました。

開催は、新型コロナ感染防止を徹底し、開催日を2月6日と2月21日の2回に分け、対面式で実施しました。

当協会会員の参加企業数は、それぞれ16社、10社の計26社で、参加学生数は、同じく508名、423名と前年並みでした。

②会員の福利厚生向上に関する事業

A. CHISA総合共済制度（別法人、「なのはな共済会」が運営）

本事業は、なのはな共済会事業として実施しているもので、同制度を実施してから令和4年度が22年となります。

この間、共済会の加入者に充実した保障と各種福利厚生サービスを提供し、加入企業のニーズに応えられる活動を行っています。

同事業ではリゾートホテルの会員券を所有しているため、組織上別法人としていますが、内容としては当協会会員向けの福利厚生事業を行っているもので、本共済会の加入条件は当協会会員であることとなっています。

このため、共済会運営は当協会が実施しており、加入企業向けのサービス充実を行っています。

(5) 情報サービス産業の振興に係る国内外との交流及び連携促進に関する事業

令和4年度は次の事業を実施しました。

①会員間、関連外部団体との交流・連携

A. 会員企業懇親会

令和4年度は、会員企業懇親会の開催を中止しました。

会員企業間の懇親を深める目的で開催しており、会員企業であれば、誰で参加でき、広い視野で会員企業間交流ができると好評でしたが、感染防止の観点から中止としました。

B. スポーツ大会等

令和4年度は、会員交流ゴルフ大会を3月に開催し、8組32名の参加がありましたが、軟式野球大会、フットサル3情産協団体対抗頂上戦、CHISAフットサル大会は開催を中止しました。

スポーツ大会は、会員交流を目的としており会員企業の従業員には好評な事業ですが、中止した大会は、新型コロナウイルス感染防止面を考慮した結果の決定となりました。

C. 他県協会との交流会の開催

東京、神奈川、埼玉、山梨、福島、千葉の情報サービス産業協会6団体で組織する「広域首都圏情報団体連絡協議会（略称：メトロ）」に参加し、情報交換等とおして当協会の発展に寄与しました。

なお、令和4年度の行事内容は以下のとおりで、年度当初は、Web会議、後半は対面会議と、状況判断しながら開催しました。

令和4年度は当協会が当事業の幹事団体を務め、諸事業を実施しました。

- ・事務局会議開催日：令和4年6月27日、11月22日
- ・幹部会議開催日：令和5年3月10日
- ・メトロエリアグリーンゴルフ大会：令和4年11月25日

②官庁等との交流・連携

官公庁等と交流・連携し、関係する委員会のメンバーとして参画し活動しました。

A. スマート化推進会議・千葉県IoT推進ラボ（主催：千葉県）

千葉県産業振興課、高度ポリテクセンター千葉、千葉県産業振興センター、千葉県産業支援技術研究所の各機関と連携する会議に出席し、県内中小企業のIOT・AIの利活用推進を図りました。

- ・7月6日、10月12日、3月22日（計3回）

- B. 産官学連携支援機関連携会議（主催：千葉県産業振興課）
地域未来投資促進法に係る関係機関の連絡会議で、人を中心とした
ICT利活用推進等を目的とした会議。

・ 6月29日

- C. 千葉県DX推進協議会（主催：千葉県総務部）
千葉県のDXを推進するため産官学で構成された協議会

- D. 千葉県ICTアドバイザリー会議（主催：千葉県総務部）
千葉県のICT戦略検討会議

- E. 千葉県男女共同参画推進連携会議（主催：千葉県男女共同参画課）
千葉県の男女共同参画を推進する会議

- F. 高度職業能力開発促進センター運営協議会
高度職業能力開発促進センターの運営、助言を行う会議で、年2回
開催された会議には鈴木事務局長がメンバーとして参画しました。

・ 6月10日、12月7日

③加盟外部団体等

令和4年度は下記団体に加盟して活動する他、収集した情報を活用して
当協会の発展に寄与しました。

- A. 情報サービス産業協会（JISA）
B. 全国地域情報産業団体連合会（ANIA）
C. 広域首都圏情報団体連絡協議会（メトロ）
D. 首都圏中央連絡自動車道建設促進県民会議
E. 千葉社会保険協会

以 上